

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9
ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 : 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年8月15日

No. 997

1995年上半期の日口貿易

はじめに

このほど当会では、大蔵省関税局発表の通関実績にもとづいて、1995年1~6月の日口貿易の商品別輸出入動向をまとめたので、ここに紹介する。付属資料として、日本とCIS・東欧各国との上半期の輸出入額を一覧にした表を掲載するので、あわせて参照されたい。

1995年1~6月の日口貿易は、往復で31億2,464万ドルで、前年同期比51.0%増大した。この数字だけを見ると順調であるかに思われるが、内実は必ずしも手放しで評価できるものではない。日本の輸出は6億2,135万ドルで、前年同期比わずか0.3%の伸びであった。輸出全般が伸び悩むなか、金属加工機械で1億ドル近い取引があり、何とかマイナスは免れた格好だ。確認はできていないが、一連の輸銀融資案件のいずれかが船積みに至った結果と推測される。一方、輸入は相変わらず拡大基調であり、1~6月の対口輸入は前年同期比72.6%増の25億329万ドルに達した。なかでも非鉄金属、とりわけアルミニウムが大量に流入しているが、これは主としてトーリング方式で欧米のトレーダーが調達した商品を、国際商品市場で買付けたものといわれている(アルミニウムについては次回の速報で紹介予定)。このところ顕著となっていた輸出の不振と輸入の活況という傾向がさらに強まったため、日口貿易の不均衡はいっそう拡大し、上半期の輸出と輸入の比はついに1対4となった。

今年春に急激に進んだ円高は、日口貿易にも影を落としている。円建てに換算すると、1~6月の日口貿易は2,828億円(前年同期比28.9%増)で、うち輸出が554億円(同15.9%減)、輸入が2,274億円(同48.1%増)であった。7月には、契約に達していたヤロスラヴリ製油所の改修案件について、同州知事が円高によるコスト高騰を理由に拒否の構えを示すなど、直接的な影響も出始めている。